

ネコ目（食肉目）クマ科

ツキノワグマ

Selenarctos thibetanus (Cuvier, 1823)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵1

島根県固有評価：－

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群（西中国地域のニホンツキノワグマ）LP

【選定理由】

平成6年度に絶滅の恐れがあるという理由で狩猟による捕獲が禁止された。今後、生息環境の破壊が進行すれば、生息個体数が減少し生息密度が低下して、急速に絶滅に向かう恐れがある。

【概要】

国内では本州・四国・九州、国外では台湾、インドシナ北部、ロシア極東地域、中国東北地方、朝鮮半島などに分布する。昆虫や蜂蜜、動物の死骸を食べたり、ごくまれに大型草食獣を捕食することがあるが、植物食が中心で、堅果類や球根・塊根・草本類の地上部など多量の植物を食べている。果樹園や飼養ミツバチへ被害を与えたり、時に、人畜に危害を加えることがあり、有害獣・危険動物として駆除の対象となることがある。冬眠中に出産する。

【県内での生息地域・生息環境】

おもに中国山地脊梁部に分布し、夏緑樹林帯をおもな

生活域としている。近年は、里地域を徘徊してカキやクリなどの果樹園に食害を及ぼすことがある。ツキノワグマの冬眠は、おもに大木の地上よりかなり高い位置にある樹洞で行われるが、大木の根元の土穴や岩穴、大きな倒木の下など地上で行われることもある。造林地内で冬眠する個体も見られる。近年になって大木の茂る森林が少なくなってからは、地上部での冬眠が増えているかもしれない。冬眠期以外の季節に、中国山地脊梁部から遠く離れた平地や、時に海岸付近にまでやって来ることがあるが、この移動の全てが、食物不足や生息環境の破壊によるものかは不明。

【存続を脅かす原因】

生息環境の分断や破壊による個体群の孤立化と生息数の減少。

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○				○														